

国際理解教育の学習指導法

～絵本を使用した新たな学習指導法の提案～

3年7組18番 高橋明日美

I はじめに（アブストラクト）

現在の国際情勢はロシアによるウクライナ侵攻をはじめとして朝鮮半島での争いや、それによる周辺国が受ける影響など様々な問題が生じており、なかなか紛争解決の兆しが見えていない。それと同時にグローバル化が進み日本に住む外国籍の人が増えている。それに比例し日本の義務教育を受ける外国籍の子どもの数も増え続けている。グローバル化の急速な進展の真っ只中にある今「グローバル化は、かつて様々な地域に広域政権が誕生した時や近代国民国家が成立した時と同じように、広い範囲にわたって統合と平準化を求めることになる。¹」とあるように、様々な国の言語・文化・環境・歴史等を知り認め合い統合を目指すことが必要不可欠となってくる。またグローバル化の進展と同時に、メディアも大人のみならず子どもにとって急速に身近な存在となっている。これにより編集者や発言者の主観を簡単に自分の意見としてしまう危険性も生じるであろう。このような世界で将来を担う子どもたちにとって役立つ国際的な知識を国際理解教育でどのように身に付けさせていくのが最適か、絵本の教材としての有効性を述べながら考察する。本論文では、まず日本の義務教育で行われている国際理解教育の現状と問題点について述べ（II）、続いて文部科学省が提示している国際理解教育の課題と、東京都八王子市の教員を対象に実施された国際理解教育に関するアンケートの調査報告書の分析（III）、さらに絵本を教材とした新たな教育手法を提案する。根拠として絵本が子どもに与える影響と、絵本を使用した国際理解教育を行う上で題材になると考えられる絵本を具体的に挙げ評価する。その上で学習指導案を提案する（IV）。最後に、国際情勢が大きく揺れ動く今の時代、そしてこれからの時代に日本の国際理解教育はどうあるべきかを考察していく（V）。

II 公立小中学校での国際理解教育の現状

文部科学省は「新学習指導要領に基づいて、平成14（2002）年度から本格実施となった総合的な学習の時間においては、「国際理解」が課題の一例として掲げられており、各学校における取組が広がっている²」と述べている。実際に日本全国の小中学校では総合的な学習の時間を使用して国際理解教育が行われている。しかし課題も多く、佐藤は近年の国際理解教育の課題について

日本の国際理解教育論は多様に展開されてきたことから、教育現場では「焦点がしぼりにくい」「何をすればいいかわからない」といった曖昧性が指摘されてきた。全体的にみると、国際化のもとで生ずる多様な社会的課題を教師が主体的に受け止め、それを学校や子どもの実態に即して実践するということには結びついていないのが実情である。³

と述べている。また、文部科学省は指導案作成や教材開発の方法等、授業づくりに直接役立つ実践的な研修が不足している点と、国際教育に携わる中核的立場の教員が不足しているという点を課題⁴として明瞭に挙げている。

つまり文部科学省が国際理解を課題として挙げ実践を呼びかけているものの、それは各学校に

¹ 高山 博（2011）「これからの大学学部の歴史教育」『学術の動向』「グローバル化と歴史学」

² 文部科学省 「国際教育を取り巻く現状と課題」

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/026/houkoku/attach/1400595.htm)2022年6月9日閲覧

³ 佐藤群衛(2007)「国際理解教育を取り巻く現状と課題～教育実践の新たな視点を求めて～」『教育学研究』「教育現場の多様化と教育学の課題」74巻2号所収 日本教育学会p.215

⁴ 1に同じ

委ねられており児童や生徒の直接的な学びには結びついていないケースが多々ある。その主な要因は教材など指導材料の不足である。また教員によって価値観や立場に違いがあり、それが国際理解教育を行う上で教育の行いにくさを生じさせてしまっているといったことも挙げられる。

以上のことを踏まえ本論文では、グローバル化の急速な進展と国際情勢が大きく揺れ動く今の時代に日本の義務教育で行われる国際理解教育において児童・生徒にとって役立つ国際的な知識を身に付けさせていくために最適な教材として絵本を使用する新たな学習指導法を提案したい。

Ⅲ 日本の義務教育における国際理解教育の課題

(1) 文部科学省 国際教育を取り巻く現状と課題⁵

新学習指導要領に基づいて平成14（2002）年度から本格実施となった総合的な学習の時間において「国際理解」が課題の一例として掲げられ、各学校における取り組みが広がっているが一方で課題も多々ある。ここで文部科学省が発表している現状と課題を二つの観点に注目して挙げていく。

一つ目は授業実践という観点である。ALTを呼んでの英語活動を実施すること、すなわち国際理解教育という誤った考え方が広がっている。実際に埼玉県草加市新田小学校ではALTとの触れ合いによる英語への興味・関心を持たせる国際理解教育を行っている⁶。これでは国際理解に関する活動が単なる体験や交流に終わってしまい、その活動から得られる国際的な理解や考えを深める時間が不足している。このような課題の背景には指導理念が確立できていないこと、学習方法や教材開発が進んでいないために教育効果が十分に上がっていないことが挙げられる。

二つ目は、教員の指導力という観点である。指導案作成や教材開発の方法等の提示、授業づくりに直接役立つ実践的な研修の不足、また国際理解教育に携わる中核的立場の教員が不足している。これらから教員や学校によって国際理解教育に対する意欲や使用する教材、そして質に差が生じてしまっている。このような課題の背景には教科書の不足や教員の価値観や立場の違いがあり教育の行いにくさが生じていることが挙げられる。

つまりこれら二つの課題を解決するためには国際理解教育を行うための学習指導案や教材の共有を行うことが必要である。またその提案する指導案の内容は生徒にとって役立つ知識や国際的な理解を深めるための観点に重きを置くだけでなく、教育する側の教員にとっても価値観や立場にとらわれることなく、授業の行いにくさが生じにくいよう、工夫と配慮を重ねる必要がある。つまり生徒も教員も参加しやすい授業を展開する必要がある。また外国籍であったり国際関係で何らかのハンデや過去を持っていたりする児童・生徒を含め、可能な限り特別な対応等をすることなく皆で一つの教室で受けることが可能な授業を実施しなくてはならない。

(2) 東京都八王子市 国際理解教育に関するアンケート調査報告書

八王子市内の小中学校の教員を対象に行われた国際理解教育におけるアンケート調査の結果を分析する。図1を見ると、国際理解教育のねらいについて約80%が多文化共生であると回答している。また近年SDGsの提示によって関心の高まっている平和尊重や地球的課題という項目については小中学校ともに30%以下でありコミュニケーションよりも割合が低い。この結果から現在、実際に日本の小中学校で行われている国際理解教育と世界的に求められている国際理解教育でそれぞれの捉え方にずれが生じているということが読み取れる。

また多文化共生が国際理解教育のねらいであると認識している教員が数多くいる一方で、それに伴う程度の学習は行われていない。そう答える教員が多文化共生についての国際理解教育を実際に行っているとすれば日本の国際理解教育の不十分さは課題とならない。これには「外国語科や社会科等の教員や、関心のある教員が取り組めばよいものとして捉えられる傾向がある⁷」こ

⁵ 1に同じ

⁶ 週に3回勤務するアメリカ人ALTによる外国語活動を各学級と特別支援学級で行っている。ALTとの短い言葉で意思疎通をしたり、担任が英語を話す様子を見たりすることで、普段触れ合うことの少ない外国人や外国語、外国の文化に触れるきっかけを作っている。

⁷ 2に同じ

とが原因の一つとして挙げられている。また、近日では様々な立場の児童や生徒がいる教室内で例えばロシアによるウクライナ侵攻などデリケートな国際情勢を踏まえて国際理解教育を行うことが、非常に難しいと言えるだろう。

教員の国際理解教育のねらいについての認識と実際に行われている国際理解教育、それと世界的に求められている国際理解教育では全く別のものとなっているのだ。

文部科学省は英語活動の実施すなわち国際理解教育という誤解が生じていると発表している。実際に図1を参照してもそのような誤解をしている教員が多い。これでは国際理解教育によって育まれる力は英語力でしかなく総合的な学習の時間に実施する必要性はない。

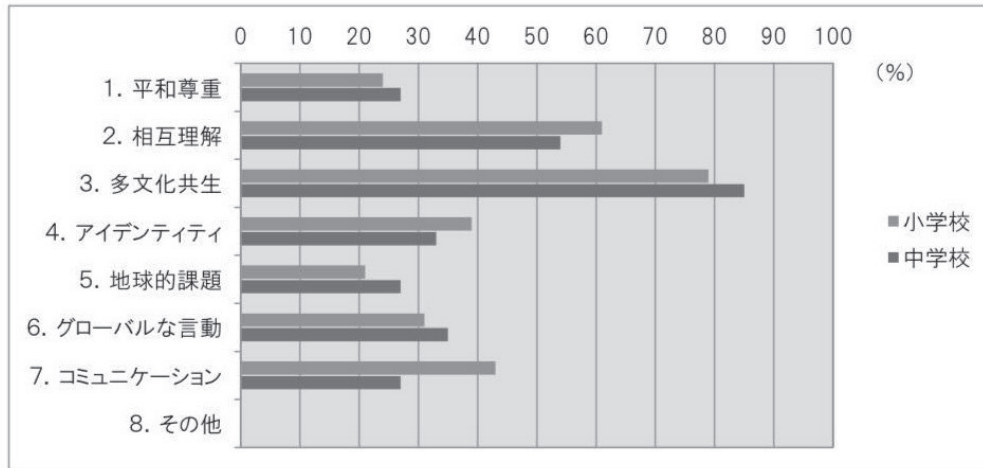


図1 国際理解教育のねらい

出典) 東京都八王子市 国際理解教育に関するアンケート調査報告書 (2013)
kokusairikaiprg-anketo.pdf (city.hachioji.tokyo.jp)

また図2を見ると、教員が必要とするサポートは出張による授業の実施、外国人講師の紹介が上位になっている。教員自身が国際理解教育を行うのではなく、専門家に行ってほしいという意思や英語力の向上すなわち国際理解教育という誤った認識が表れている。これは前述した関心のある教員が積極的に行うべきという考えや、埼玉県草加市新田小学校の誤った実践例に近いものである。これら以外の項目は教員自身が国際理解教育を行う上で足りていないサポートである。

授業プランのアドバイス、実践例や教材の紹介、教員対象の研修の不足とはつまり国際理解教育を教員が実施するための基盤が出来ていないということである。一般的な国語、数学(算数)、理科、社会といった教科では教科書や実践例が豊富であり研修も行われる。その他、副教科である中学校では保健体育、音楽、美術、技術・家庭、小学校では生活、図工、音楽、体育、保健といった教科でも教科書や指導実践例が用意されており、テストも行われている。しかし総合的な学習の時間は貴重なことを学ぶにも関わらずテストが無い。紙面での実力の定着を図ることなしに実践を迎えてしまう。つまり次にその知識を活用するのは国際的交流や国際問題に実際に直面した時であるということだ。しっかり自分のものとして定着していなければその時にはもう時すでに遅しである。反対にしっかり定着していればそれは時に英語や数学(算数)、理科、社会といったメインの教科よりも意味を成し、役立つに違いない。国はこれだけ重要な学びの機会を重要視し日本全国の学校間で可能な限り差のない教育を行う必要がある。つまり総合的な学習の時間に行われる国際理解教育において不足しているのは教科書と指導案の提示なのである。

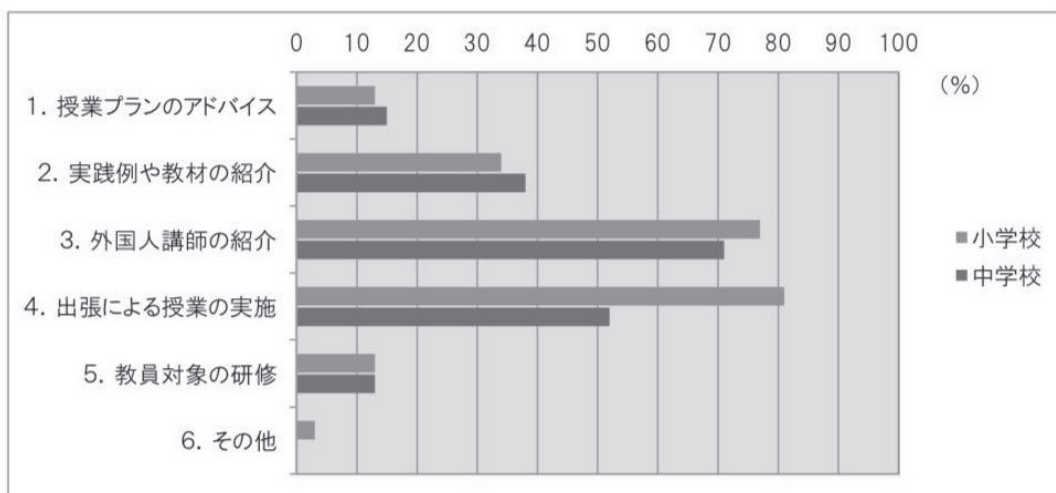


図2 国際理解教育の実施に必要なサポート
 出典) 東京都八王子市 国際理解教育に関するアンケート調査報告書 (2013)
 kokusairikaiprg-anketo.pdf (city.hachioji.tokyo.jp)

しかし日本では、このように英語教育よりも国際的に役立つ知識や多様性、多文化等の理解を深めること、つまり国際理解教育を文部科学省が提示し求められている一方で日本以外の多くのアジア諸国では日本よりも積極的に英語教育を行っている。日本では2020年度から導入された小学校での英語教育必修化だが、決定前には「小学校で本格的に英語教育を実施するか否かで意見が二分されていた。⁸⁾」つまり小学校への英語教育の導入に反対意見を持つ人が多かったのに対し、日本同様に英語非公用語国である韓国では「公立小学校で英語教育が導入されたのは1997年である。小学校3年から40分授業を週2時間で開始され、学年進行の結果、2000年に6年生まで行われるようになった。この4年間を総括して、新たに本格的に開始されたのが2001年である⁹⁾」のである。このように韓国では日本より何年も早くから力を入れた英語教育が行われている。このように周辺国と日本の英語教育事情を比較すると、日本は文部科学省が提示しているような国際理解教育を進めるよりも優先的に英語教育を実施すべきとの意見を持つ人が多数いることにも納得できる。実際に2020年に新学習指導要領により小中学校での外国語活動が重要視されていることから求められている活動であることが分かる。

しかし直面する国際情勢における問題を解決するためには英語が使えるだけでは解決にはなかなか繋がらない。英語力と同じくらい相手国を理解する力や理解しようとする力、歴史的背景や文化、宗教等への理解が求められている。さらに世界的には2015年に採択されたSDGsが掲げられていることから国際的にはそれらの理解、そして誰一人取り残さないということが求められているのである。

IV 国際理解教育教材としての絵本の有効性

(1) 絵本が子どもに与える影響

絵本は子どもが一人で絵を楽しみながら読むこともしばしばあるが、絵本の楽しさを知る始まりの多くは未就学児の頃に親や幼稚園・保育園などでの大人による読み聞かせである。しかし絵本の読み聞かせは未就学児の時期に留まらない。いくつかの小学校ではPTA活動として保護者のボランティアによる読み聞かせが行われており児童は図書の授業を楽しんでいる。『多文化絵本を楽しむ』で児玉晶代は「絵本は大人も子どもも年齢に関係なく、だれでも楽しむことのできるメディア¹⁰⁾」と述べている。これを踏まえると読み聞かせを行う対象は、文章の読み取りがまだ難しく理解に絵が大きな頼りになる未就学児の時期の子どもだけでなく、自分で文

⁸⁾ 杉浦正好 (2005) 「韓国の小学校では英語の授業がどう展開されているのか? -担任主導の英語教育-」

⁹⁾ 6に同じ

¹⁰⁾ 福岡貞子・伊丹弥生・伊東正子・池川正也 (2014) 『多文化絵本を楽しむ』 ミネルヴァ書房p.100

章を読み理解できる小学生でも中学生でも良いのである。これらの年代の子どもが絵本を読む、または読み聞かせられるというのは未就学児と比較し確実に絵本のメッセージ性など深いところまで読み取ることが出来、教育的側面から考えて効果的である。さらに拓殖大学大学院の劉と拓殖大学の工藤は「教育の手段として、子どもが絵本を通して学び、その知識や経験を将来の社会的実践に生かすという好循環を構築することが期待できる¹¹⁾」と述べている。これらから絵本は幼児が読むものだという考えは固定観念に過ぎないと考えられる。幼児向けと対象を絞られた絵本であっても、それは小中学生にとっても関連する物事に対する関心を持つきっかけとなり得るに違いない。そして絵本を題材に国際情勢に対する考えを深めることにおいて有効であると考えられる。

ここで中央大学国際経営学部4年鈴木日向子さんのアイデア実現インターンシップにおける「ねこまえプロジェクト¹²⁾」を挙げる。鈴木さんは猫の殺処分の減少を目的に、猫と暮らす前に読む本として『ぼくわからないよ』を制作した。「子供に伝わるような分かりやすさ、心を動かす力、長すぎないという点¹³⁾」を絵本のメリットとして挙げ、同時に絵本を手段として用いた理由としている。この取り組みから国際理解教育を正しく、より児童・生徒にとって将来的に役立つことを目的に普及させる際にも絵本の使用が効果的であると考えた。

さらに国際理解教育において、例えば国際戦争の歴史を用いる場合、その戦争について書かれた書物や教員の知識を基に授業を進めたとすると、ある程度、授業者の主観が反映せざるをえない授業になってしまう可能性が避けられないであろう。しかし絵本を用いて理解を深めるならば授業者の主観のみで授業が進んでしまう恐れが低く、それぞれの児童・生徒自身の読み取り方を基に理解を深め考える機会を彼らに与えることが出来る。なぜなら絵本ではその国の風土や気候、国民性といった事柄が絵を用いて多様な視点を取り入れながら、かつメッセージが直接的な描かれ方をせず抽象的に示されている場合が多いからである。

また『子どもと絵本 絵本のしくみと楽しみ方』で藤本朝巳は「子どもは目から入ってくるイラストレーションで育つ¹⁴⁾」「情報がテレビやビデオなどを通して入ってくることもあるが、絵が決定的に子どもの世界を開くことは確か¹⁵⁾」と述べている。これを踏まえると現在、公立での義務教育でも一人一台のタブレットパソコンや電子スクリーンといった様々なICT機器が導入されデジタル画像を使用したパワーポイント等を使用しての授業が一般的になっているが、デジタル画像を使用するよりも絵本において人の手で描かれた温かみを感じることで出来る絵を目から取り入れることで、子どもの教材から得られるものを吸収する力、新たな世界を開く機会を一層高めることが出来るであろう。しかし絵本を使用しながらもICT機器を十分に活用出来たらなお良い。絵本をプロジェクターに投影し教員が読み聞かせをするといったことで絵本とICT機器のメリットを同時に生かせるに違いない。

また絵本は幅広い人にとって楽しむことが出来、込められたメッセージ性が届きやすいため、障がいを持っていたり外国籍の子どもにおいても個別対応が必要なく同じ教室で学ぶことが出来る。感じ方や読み取りのレベルに差が生じてもそれがその児童・生徒にとっての学びとなり尊重される。且つ教員にとっては現状の国際理解教育と比較し、自らの立場や考えのみにとらわれずより多角的な視点を持って教育をすることが出来る。

このように小中学生が国際情勢や多様な文化や宗教等を理解し役立つ知識を得るという過程において絵本を読み、それに込められたメッセージ性を読み取ろうとすることは有効である。

¹¹⁾ 劉慧敏・工藤芳彰(2022)「八王子市の公立小学校における認知症サポーター育成活動と認知症を題材とした教育絵本」『BULLETIN OF JSSD 2022 日本デザイン学会 デザイン学研究』

¹²⁾ 中央大学国際経営学部(2021)「国際経営学部3年生・鈴木日向子が、目標の556%を達成するクラウドファンディング・プロジェクトを実施しました」

<https://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/globalmanagement/news/2021/12/57509/> 2022年10月1日閲覧

¹³⁾ HAKUMONChuo学生記者が取材編集する広報誌(2022)「猫と暮らす前に読む絵本『ぼく わからないよ』」

https://www.chuo-u.ac.jp/hakumon_chuo/news/2022/04/59944/ 2022年10月1日閲覧

¹⁴⁾ 藤本朝巳(2015)『子どもと絵本 絵本のしくみと楽しみ方』人文書院p.9

¹⁵⁾ 6に同じ

(2) 各国・各地域の絵本から得られる学び

国際理解を深める題材になるであろう絵本を地域ごとに表1から表9にまとめ考察した。「多文化に出会うブックガイド¹⁶」を主に参考にし、その中から以下の基準で選書した。また、東京都杉並区立中央図書館でレファレンスサービス(資料探しの相談など)を受け選書の参考とした。

- ・対象年齢が小学生未満、小学生、中学生の絵本または写真絵本であること。
- ・基本的には作者(作または絵の少なくともどちらか一方)がその国出身の人であること。
- ・どこの国の絵本かはっきりしていること。
- ・気候、文化、歴史、言語のうち1項目以上学べる事柄があると判断したもの。

また全ての国を調べたわけではない。「多文化に出会うブックガイド¹⁷」に掲載のあった国が対象である。掲載があっても以上の基準に当てはまる絵本が見つからなかった国については表に示していない。1つの国で複数の絵本を挙げた場合もある。

また、評価基準は◎・○・△の三段階である。

◎：以下の3項目以上に当てはまる。

○：以下の2項目に当てはまる。

△：以下の1項目に当てはまる。

- ・作者または絵が、その国出身の人である。
- ・国内または国外で賞を受賞している。また小中学校の教科書に掲載されている。
- ・気候、文化、歴史、言語のうち2項目以上を学ぶことが出来る。
- ・SDGsの項目のうち1個以上に関連した学びが得られる。

※上記の項目に当てはまるものには下記の表中において下線を引いている。



図2 持続可能な開発目標 SDGs 17の目標

出典) 日本ユニセフ協会(ユニセフ日本委員会)

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/about/>

¹⁶ 世界とつながる子どもの本棚プロジェクト(2011)『多文化に出会うブックガイド』 読書工房

¹⁷ 13に同じ

【表1】国際理解教育に有効であると考えられる東アジアの絵本

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
1	中国	ヤンヤンいちばへいく	周翔(中国)	ポプラ社	小・低	文化 伝統的な行事	なし	なし	△
2	中国	ホンホンとメイメイ	北沢杏子(日本)	アーニ出版	小・低	言語・文化・歴史・気候 雲南省の先住民民族イ族	日本図書館協会選定図書	1・4	◎
3	台湾	ねずみのおよめいり	文/モニカ・チャン(台湾) 絵/リスリー・チョウ(台湾)	河出書房新社	小・低	文化 農家の様子や農具、 服装、調度品	なし	なし	△
4	モンゴル	アローハンと羊 - モンゴルの雲の物語	興安(モンゴル)	こぐま社	小・低	気候・文化 人間と家畜の関わり、 遊牧	なし	15	◎
5	モンゴル	スーホの白い馬	大塚勇三(日本)	福音館書店	小・低	気候・文化 伝統楽器の馬頭琴	小学校2年 国語光村図書掲載	10	◎
6	韓国	きょうはソンミのうちでキムチをつけるひ!	チェ・インソン(韓国)	セーラー出版	小・低	文化・言語 朝鮮半島の年中行事 「キムジャン」、キムチの作り方	なし	なし	○
7	韓国	ソルビム - お正月の晴れ着	ベ・ヒョンジュ(韓国)	セーラー出版	小・低	文化・言語 優しい単語は韓国語をそのまま用い、巻末に解説	なし	なし	○
8	韓国	水宮歌(スグンガ)	文/イ・ヒョンスン(韓国) 絵/イ・ユッナム(韓国)	アートン新社	小・低	文化・言語 韓国の大衆芸能「パンソリ」	なし	なし	○

(2022.8筆者作成)

表1を参照すると、日本と同じ東アジアという分類でも家屋や言語、行事や服装、人々の考え方や雰囲気の違いを感じ理解することが出来る。一方で家族が共に食卓を囲んだり伝統行事を楽しむこと、肌の色が似ているなど共通点もみられる。

また戦争や紛争について描かれている絵本は以上からは見られないことから、戦争・紛争による貧しい現状が他地域と比較すると少ない、または明るみになっていないということが読み取れる。



図3 スーホの白い馬
出典) 福音館書店

<https://www.fukuinkan.co.jp/book/?id=83>

図3はモンゴルの絵本『スーホの白い馬』の表紙である。表1も踏まえ服装に注目するとモンゴルの民族衣装「デール」を身に着けていることが分かる。物語中に説明が無くとも絵本で絵があるからこそ、その国の文化について触れ、伝統文化について文化を深めることが可能である。民族衣装だけでなく同じく作中の絵から伝統的住居「ゲル」も見られる。相違点を挙げると東アジア内で違いがはっきりしたのは民族衣装である。日本でも現代は毎日着物を着て生活をするわけではないが、着物の伝統は受け継がれている。これと同じように各国の伝統が絵本で表現されておりそれらを知る事が可能であると考えられる。

【表2】国際理解教育に有効であると考えられる東南アジア・オセアニアの絵本

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
9	マレーシア	くいしんぼうのチビワニ	ザイヌディン・ジャミル (マレーシア)	蝸牛社	小・低	気候 マレーシアに生息する動物	ユネスコ・アジア文化センター主催 野間国際絵本原画コンクール入賞	なし	○
10	タイ	しーっ!ぼうやがおひるねしているの	作/ミンフォン・ホ (ミャンマー) 絵/ホリー・ミード (アメリカ)	偕成社	小・低	気候 高床の家、気候や動物、タイの農村の風景	なし	なし	△
11	フィリピン	レイアとナネット - フィリピン・チボリ族の子どもたちの一日	文/きたざわきょうこ (日本) 写真/はせがわみずきち (日本)	アーニ出版	小・低	気候・文化 ミンダナオ島のチボリ族の子どもたちの一日	なし	1・2・3・4	○
12	インドネシア	TSUNAMIをこえて - スマトラ沖地震とアチェの人びと	写真/アチェ・フォトジャーナリストクラブ (インドネシア) 文/藤谷健 (日本)	ポプラ社	小・高	気候・歴史 スマトラ沖地震による津波と被害 インドネシアの自然環境	なし	3・4・11・14	◎
13	パプアニューギニア	森の暮らしの記憶 - パプアニューギニアのマーロン・クエリナドさんのゴゴール溪谷の村のおはなし	文/マーロン・クエリナド (パプアニューギニア) 絵/マーロン・クエリナド (パプアニューギニア)	自由国民社	小・高	気候・言語・文化 熱帯雨林気候、森林破壊に抗議	なし	13・15	◎
14	ミクロネシア	おにより つよいおれまいい - サトワヌ島民話	土方久功 (日本)	福音館書店	幼児	気候・文化 島の自然と原住民の暮らし	なし	なし	△
15	ポリネシア	不思議なロンゴ・ロンゴ	きむらしょうへい (日本)	福武書店	小・中	文化・歴史 イースター島、モアイ像、島の歴史と植民地主義	なし	11・16	○
16	ツバル	地球温暖化、しずみゆく樂園 ツバル - あなたのたいせつなものはなんですか?	山本敏晴 (日本)	小学館	小・高	気候・言語・文化 地球温暖化による海面上昇で	第57回小学館児童出版文学賞	11・13	◎
17	オーストラリア	大きな悪魔のディンゴ - ディック・ラウジの絵本	ディック・ラウジ (オーストラリア)	集英社	小・低	気候 先住民族アボリジニーの信じている精神世界の原点	なし	なし	△
18	ニュージーランド	マウイたいようをつかまえる	ピーター・ゴセージ (ニュージーランド)	偕成社	幼児	気候・文化 マオリ族の雄大な神話	なし	なし	○

(2022.8筆者作成)

表2を参照すると、豊かな自然や動物との共存を描いた絵本が多い。熱帯雨林気候の特徴が絵や写真からはっきりと読み取れる。また島国が多く過去に津波があったことが分かる絵本(『TSUNAMIをこえて - スマトラ沖地震とアチェの人びと』)もあることから、日本と似た問題を抱えている部分がある。また様々な民族の共存が題材になっている絵本が多いことから多民族国家が多いことが分かる。その中でかつて実際に民族紛争が多々起こっていたという事実もある。



図4 地球温暖化、しずみゆく樂園 ツバル - あなたのたいせつなものはなんですか？
出典) 小学館

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09726295>

気候や自然をはっきりと表現している絵本が多く、図4のように地球温暖化問題や環境問題などに対する警鐘を鳴らしている絵本が多い。『地球温暖化、しずみゆく樂園 ツバル - あなたのたいせつなものはなんですか？』では実際の子ども達の描いた絵や現地の写真があり、説得力がある。絵本の中でも写真絵本は、よりメッセージが伝わりやすいと考えられる。

【表3】国際理解教育に有効であると考えられる南アジア・中央アジア・西アジアの絵本

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
19	バングラデシュ	たまごからうま-ベンガルの民話	酒井公子(日本)	偕成社	小・低	言語 ベンガル地方の民話	なし	15	△
20	ネパール	ロミラのゆめ-ヒマラヤの少女のはなし	文/金田卓也(日本) 絵/金田常代(日本)	偕成社	小・中	気候・文化 ヒマラヤ山麓で小鳥や動物と生活する人々	絵本にっぽん賞	15	◎
21	スリランカ	かさどろぼう	シビル・ウェッタシンハ(スリランカ)	徳間書店	小・低	スリランカ生まれの作者が実話をもとに創った絵本	なし	なし	△
22	インド	カレーライスがやってきた	森枝卓士(日本)	福音館書店	小・中	文化 インド史研究者である著者がカレーライスの豊富な写真やレシピを紹介	なし	なし	△
23	パキスタン	ラニーのねがい-ガンダーラの少女のはなし	話/アズラー、アービダ(パキスタン) 文/金田卓也(日本)	偕成社	小・中	気候・文化・言語 東西の文明が融合しガンダーラ文化	なし	なし	○
24	アフガニスタン	アフガニスタン山の学校の子どもたち	長倉洋海(日本)	偕成社	小・中	文化・歴史・言語 戦争の悲劇を背負いながらも学校で学ぶ子どもたちの未来への希望	・社会保障審議会推薦文化財認定 ・日本図書館協会選定図書	4・16	◎
25	トルキスタン	ぼくのチョパンドス	小林豊(日本)	光村教育図書	小・低	文化・歴史 伝統競技ブズカシ戦争で片足を失った父	なし	3	○
26	イラン	アフマドのおるすばん	文/フェレシュテ・ターイェルプール(イラン) 絵/メフルヌーシュ・マアスーミヤーン(イラン)	ブルース・インターアクションズ	小・低	サモワールや女性の服装	なし	なし	△
27	イラク	バスラの図書館員-イラクで本当にあった話	ジャネット・ウィンター(イラク)	晶文社	小・中	歴史 爆撃による図書館の焼失 戦時中のイラクの人々の勇気	やまねこ翻訳大賞絵本部門	16	◎

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
28	トルコ	ギョレメ村でじゅうたんを織る	写真・文/新藤悦子(日本) 絵/西山晶(日本)	福音館書店	小・中	気候・言語・文化 イスラム教徒の結婚式や割礼式、断食や礼拝、犠牲祭	なし	4	○

(2022.8筆者作成)

表3を参照すると中央アジア、西アジアは戦争を描いた絵本が圧倒的に多いと言える。それに伴って写真絵本が他の地域と比較し特に多いと言える。これらの写真絵本の作者は日本人の場合が多く、現地の様子を自国(日本)に伝え何か力になろうとしていると考えられる。紛争・戦争禍にない日本で暮らす人々にとって凄惨な他国の状況から目を背けず向き合うことも国際理解をするにあたって必要なことなのであろう。そして戦時下でも強く生きる人々が描かれている絵本が複数の国であり、人間の強く生きようとする力はどの国にも共通していることが分かる。また戦争が人々に幸せをもたらすという内容で描かれた絵本は一冊もなく、どれも平和を求める内容であり絵本を通して訴えや発信が込められていると読み取れる。



図5 ラニーのねがい-ガンダーラの少女のはなし
出典) 偕成社
<https://www.kaiseisha.co.jp>

また図5はパキスタンの絵本『ラニーのねがい』の表紙であり、女性イスラム教徒が頭や身体を覆うヒジャブを身に着けた主人公が描かれている。他地域の絵本と比較してみても表紙を見ただけで異国の雰囲気を感じる。これにはイスラム教の教えに基づいた生活が根強い地域であるということが関係していると考えられる。

【表4】国際理解教育に有効であると考えられるヨーロッパ西部・南部の絵本

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
29	ギリシア	わたしのろば ベンジャミン	文/ハンス・リマー (ドイツ出身、ギリシア在住) 写真/レナート・オスベック (スウェーデン)	こぐま社	幼児	気候 地中海の島に住む主人公 海辺の風景、街並の道	なし	15	△
30	ボスニア・ヘルツェゴビナ	平和の種をまく - ボスニアの少女エミナ	大塚敦子(日本)	岩崎書店	小・低	気候・歴史 かつての民族紛争と現在の平和	・講談社出版 文化賞絵本賞 ・小学館児童 出版文化賞	1 16	◎

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
31	クロアチア	コウノトリはどこへいく	アンドレア・ペトルリック・フセイノ・ヴィッチ(クロアチア)	講談社	小・低	歴史・言語 主人公コウノトリが戦争を避け新しい村を探し、平和を求める	なし	16	◎
32	コソボ	ザビット一家、家を建てる - KOSOVO	長倉洋海(日本)	偕成社	小・中	気候・文化 かつての戦地に戻ってきた家族がテント暮らしをしながら家を建てる日々	第36回講談社出版文化賞写真賞受賞	16	◎
33	イタリア	星の使者-ガリレオ・ガリレイ	ピーター・シス(アメリカ)	徳間書店	小・中	歴史 権力に屈せず地動説を唱え続けたガリレオの生涯	コールドコット賞	なし	△
34	スイス	ウルスリのすず	文/ゼリーナ・ヘンツ(スイス) 絵/アロワ・カリジェ(スイス)	岩波書店	小・低	気候・文化 アルプスの元気な男の子	国際アンデルセン賞受賞	なし	◎
35	ポルトガル	ポルトガルのむかしばなし はしれ!カボチャ	文/エバ・メフト(チリ) 絵/アンドレ・レトリア(ポルトガル)	小学館	幼児	カボチャが主人公、クリスマスを祝う国ならではの奇抜な主人公カボチャ	なし	なし	△
36	スペイン	ねぼすけスーザのおかいもの	広野多珂子(日本)	福音館書店	小・低	気候・文化 スペインの独特の風景と生活	なし	なし	△
37	フランス	シモンのおとしもの	バーバラ・マクリントック(アメリカ)	あすなる書房	小・低	気候・文化 20世紀初頭のパリが舞台 パリの名所が随所に出てくる	2006年度ニューヨークタイムズベストイラスト受賞	なし	○
38	ドイツ	オットー-戦火をくぐったティベア	トミー・ウンゲラー(フランス)	評論社	小・中	文化・歴史 強制収容所に送られたユダヤ人、空襲	なし	10・16	○
39	オランダ	絵本アンネ・フランク	文/ジョゼフィーン・プール(イギリス) 絵/アンジェラ・バレット(イギリス)	あすなる書房	小・中	気候・歴史 『アンネの日記』で有名なアンネがまだ自由に過ごしていた時代の姿を生き生きと描く	なし	10・16	○
40	デンマーク	ぬまばばさまのさけづくり	イブ・スパング・オルセン(デンマーク)	福音館書店	小・低	気候 沼地が季節ごとに見せる表情、身近な自然の姿	なし	15	○
41	イギリス	マザーグースのうた 第1集~第5集	谷川俊太郎(日本)	草思社	小・中	文化・言語 遊びの中で口ずさみ、小説や新聞の見出しにもしばしば引用される伝承童謡	なし	なし	△
42	アイルランド	アイルランドのむかしばなし ジェイミー・オルークとおばけイモ	トミー・デ・パオラ(アメリカ)	光村教育図書	小・低	気候・歴史 19世紀頃ジャガイモが食料として重宝されたことが背景にある	なし	15	○
43	スコットランド	妖精の騎士 タム・リン	再話/スーザン・クーパー(イギリス) 絵/ウォリック・ハットン(イギリス)	小学館	小・低	気候 スコットランドで語り継がれてきた物語詩バラッドをもとに創作した絵本	なし	なし	△

(2022.8筆者作成)

表4を参照すると、ここに挙げた約半分の国の絵本で戦争が背景にある。戦争と聞くとヨーロッパよりも朝鮮半島や西アジアのイメージが日本人にとっては強いが、第二次世界大戦ではヨーロッパでの戦争による被害や悲劇も相当なものであったことが分かる。一方でどの国

の絵本も同じような雰囲気や絵が描かれており多くの国が同じキリスト教の国であることから、西アジアとは違い紛争が少ないことが分かる。



図6 シモンのおとしもの
出典) あすなる書房

<http://www.asunaro-shobo.co.jp/home/index.html>

また現在も観光名所になっているような場所が絵本でも描かれていることから長い歴史があり大切にされていることが分かる。図6はフランスの絵本『シモンのおとしもの』の作中の絵である。この絵本は2006年度ニューヨークタイムズベストイラスト賞を受賞している。政治的な面や国際情勢を学ぶ際に、歴史や民族、宗教に視点を置きがちだが町並みやその国の雰囲気を知ることによって理解が深まると同時に小中学生でも興味や親近感を得ることができ、理解が深めやすいと考えられる。写真や絵を用いる、絵本だからこそその魅力の一つであると考えられる。

【表5】国際理解教育に有効であると考えられるヨーロッパ東部・北部・ロシアの絵本

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
44	ロシア	おおきなかぶ	A・トルストイ(ロシア)	福音館書店	小・低	気候・文化	光村図書 小学校1年生国語	10	◎
45	ロシア	クラウディアのいのり	文/松尾靖子(日本) 絵/小林豊(日本)	ポプラ社	小・低	歴史・言語 スパイ容疑でシベリアに抑留、50年間帰国できなかった日本人男性ヤコブと彼を支え続けたロシア人女性の実話	第14回日本絵本省読者賞	11・16	◎
46	ウクライナ	てぶくる	エウゲーニー・M・ラチョフ(シベリア)	福音館書店	幼児	ユーモアや迫力	なし	10	○
47	ウクライナ	はちみついろのうま	小風さち(日本)	福音館書店	小・低	気候 ウクライナ地方特有の自然や伝統的な衣装	なし	なし	△
48	ベラルーシ	アレクセイと泉のはなし	本橋成一(日本)	アリス館	小・中	気候・歴史 チェルノブイリ原子力発電所爆発事故による大量の放射能事故後も村に住む人々の姿	映画化された作品が多数受賞	6・11・15	◎
49	ハンガリー	くさのなかのキップコップ	マレーク・ベロニカ(ハンガリー)	風濤社	幼児	気候 自然の中に息づく生き物と植物がいきいきと描かれる自然の豊かさ	なし	15	○

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
50	チェコ	おとぎばなしをしましょう	文/フランチシェク・フルビーン(チェコ) 絵/イジー・トゥルンカ(チェコ)	プチグラパブリッシング	小・低	文化 チェコで有名なおとぎ話	なし	なし	△
51	スロバキア	12月くんの友だちめぐり	文/ミーシャ・ダミヤン(スロバキア) 絵/ドゥシャン・カーライ(スロバキア)	西村書店	小・高	文化 四季折々の気候や風景、クリスマス	なし	なし	△
52	ポーランド	コルチャック先生-子どもの権利条約の父	トメク・ポガツキ(ポーランド)	講談社	小・中	気候・歴史 ワルシャワで医師教育者として孤児院を設立し子ども達の福祉と権利を守るためにたくさんの童話や教育書などを執筆した偉人の生涯	なし	1・2・3・4・10・16	◎
53	フィンランド	リスの目-フィンランドからスウェーデンへ。北欧にもあった学童疎開	ベロニカ・レオ(フィンランド)	ほるぷ出版	小・中	文化・歴史 第二次世界大戦中のフィンランドの学童疎開と当時の状況	なし	16	◎
54	ノルウェー	雪原の勇者-ノルウェーの兵士ビルケバイネルの物語	文/リーザ・ルンガ・ラーセン(ノルウェー) 絵/メアリー・アゼアリアン(ノルウェー)	BL出版	小・中	気候 史実に基づく実在した偉大な王の幼少期の物語 スキーレースの紹介	なし	なし	△
55	スウェーデン	ブルーベリーもりでのプッテのぼうけん	エルサ・ベスコフ(スウェーデン)	福音館書店	幼児	気候 スウェーデンの自然	なし	15	○
56	アイスランド	やねの上にさいいた花	インヒギビョルク・シーグルザルドッティル(アイスランド)	さ・え・ら書房	小・低	気候・文化 アイスランドの風景、豊かな自然に恵まれたこの国のおおらかさ	なし	なし	○
57	グリーンランド	グリーンランドの絵本 マスとミラリク	スベン・オッター(デンマーク)	評論社	小・低	気候・文化 グリーンランドの暮らしに不可欠なソリを引く犬と少年の物語 人間がペットではなく人間の生活を支える大切なパートナーであることが分かる	なし	なし	△

(2022.8筆者作成)

表5を参照すると、ヨーロッパ東部・北部・ロシアの絵本は多くが気候を全面的に表現した作品であった。ほとんど全ての絵本で積雪が表現されていたり服装がその気候に対応していることが一目見て分かる。その土地ならではの気候や自然との共存が描かれている。他の地域では同じ地域であっても国ごとに特色があり相違点をはっきり分かる。しかしこの地域では相違点が読み取りにくい。



図7 はちみついろのうま
出典) 福音館書店
<https://www.fukuinkan.co.jp/>

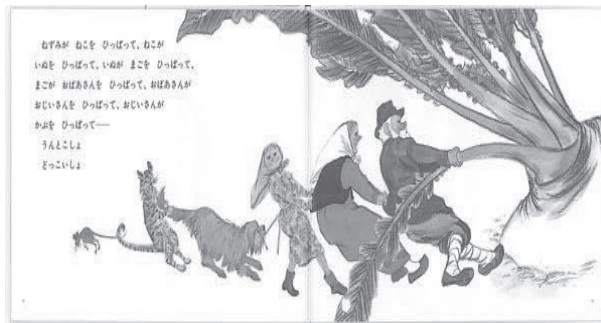


図8 おおきなかぶ
出典) 福音館書店
<https://www.fukuinkan.co.jp/book/?id=51>



図9 アレクセイと泉のはなし
出典) アリス館
<http://www.alicekan.com/books/978-4-7520-0274-1.html>

特に図7・8・9の3冊に注目するとウクライナ・ロシア・ベラルーシでは写真や絵から相違点が少ないということが読み取れる。ここで歴史的背景に着目する。この3つの国は元々ソビエト連邦で一つの国であった。現在はソ連崩壊によってそれぞれ別の国であるが気候や服装、雰囲気は現在も酷似している、または同様な面が多い。複数の絵本を比較することで見えてくる政治的側面もある。実際に国際理解教育の授業を行う際においても、1つの絵本を教材とするだけでなく、場合によっては関係のある複数の国や、同じ国の違う時代に出版された絵本を比較しながら複数の絵本を同時に使用するのも効果的であろう。

【表6】国際理解教育に有効であると考えられるアフリカの絵本

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
58	エジプト	エジプトのミイラ	アリキ・ブランデンバーグ(アメリカ)	あすなる書房	小・低	文化 ミイラ作りの方法やピラミッドの仕組み、古代エジプト人の社会と知恵と死への考え方	なし	なし	△
59	エチオピア	もどってきたガバタばん-エチオピアのお話	ギルマ・ベラチョウ(エチオピア)	福音館書店	小・低	気候・文化 人々の服装や住居、道具類	なし	なし	○
60	ケニア	ワングリの平和の木アフリカでほんとうにあったおはなし	ジャネット・ウィンター(アメリカ)	BL出版	小・低	気候・歴史 ノーベル平和賞を受賞したワングリの伝記絵本	2004年ノーベル平和賞(ワングリ)	11・13・15	◎
61	コンゴ民主共和国	ゴリラとあかいぼうし	作/山極寿一 絵/ダヴィッド・ピシームワ(コンゴ民主共和国)	福音館書店	幼児	気候 長年ジャングルでゴリラの野外観察を続け会話を試みてきた著者によるゴリラ語の絵本	なし	15	○
62	ナイジェリア	おばあちゃんにおみやげを-アフリカの数のお話	イフェオマ・オニェフル(ナイジェリア)	偕成社	幼児	文化・言語 ナイジェリアの市場など日常の風景と生活、家族愛	なし	12	◎
63	ガーナ	アフリカのあかずきんちゃん かわいいサルマ	ニキ・ダリー(南アフリカ)	光村教育図書	小・低	気候・文化 南アフリカの作家が書く暮らしぶりや鮮やかな服装や表情はのびやか	なし	なし	△
64	リベリア	ほーら、これでいい!-リベリア物語	ウォンニディ・ベイ(リベリア)、マーガレット・H・リップパート(リベリア)	アートン新社	幼児	リベリア北部に伝わる物語 家族や社会の中で一人一人が必要な存在であり助け合うことの大切さ	なし	なし	△
65	シエラレオネ	シエラレオネ-5歳まで生きられない子どもたち	山本敏晴(日本)	アートン新社	中学生	気候、言語 内戦の影響により物資も教育も不足している国の概況の中でも子ども達の日々の明るい表情	なし	2・3・4・6・10	○
66	セネガル	おじさんのブッシュタクシー	クリスチャン・エパンニャ(カメルーン)	アートン新社	小・低	文化 多彩な文化を持つ人々との交流	なし	13	△
67	マダガスカル	マダガスカルがこわれる	藤原幸一(日本)	ポプラ社	中学生	気候 人口増による森林伐採バオバブの根腐れ、森を失った動物たちの生きにくさ 生物の多様性の喪失が地球に引き起こす危機	なし	13・15	△

(2022.8筆者作成)

表6を参照すると、アフリカ独自の課題や問題がはっきりと見て取れる。経済的側面に注目すると内戦による貧困で危機的状況にある現状、環境的側面に注目すると地球温暖化による自然破壊の進行である。一方でアフリカ諸国の陽気で明るく独自の文化を大切にしていることも読み取れる。



図10・11 マダガスカルがこわれる

出典) ポプラ社

<https://www.poplar.co.jp/book/search/result/archive/8000663.html>

図10・11にあるようポプラ社『マダガスカルがこわれる』では豊富な写真があることで豊かな自然の素晴らしさを読者に伝えている。一方で東南アジアの小学館の『地球温暖化、しずみゆく楽園 ツバル - あなたのたいせつなものはなんですか?』と同様、環境保護に対する警鐘も鳴らしている。

【表7】国際理解教育に有効であると考えられる北アメリカの絵本

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
68	アメリカ	天の火をぬすんだウサギ	ジョアンナ・トゥロートン(アメリカ)	評論社	小・中	北米先住民の「なぜ火が出来たか」という伝説	なし	なし	△
69	アメリカ	月ようびはなにたべる?	エリック・カール(アメリカ)	偕成社	幼児	言語 身近な食べ物や動物	ローラ・インガルス・ワイルダー賞 受賞	なし	○
70	アラスカ	かあさん、わたしのことすき?	作/バーバラ・ジョシー(アメリカ) 絵/バーバラ・ラヴァレー(アメリカ)	偕成社	幼児	気候・文化 イヌイットの少女と母親子の愛情とイヌイットの文化	なし	14	○

(2022.8筆者作成)

表7を参照すると、アメリカは気候や文化についてほとんど描かれていない。アメリカの独立は1776年であり他の国と比較すると極端に歴史が浅いことがその理由であると考えられる。



図12 かあさん、わたしのことすき?

出典) 偕成社

<https://www.kaiseisha.co.jp/>

一方で図12は偕成社『かあさん、わたしのことすき?』というアラスカの絵本である。内容はとても幼い子ども向けであるが絵からはイヌイットの文化がよく分かる。同じ北アメリカという括りであっても歴史的背景だけでなく歴史の長さ、独自の気候などが影響し各々の文化を作り上げていることが分かる。ここで一つ疑問が湧く。アラスカは現在アメリカの一部であるにも関わらず、絵本を選ぶ際に用いた読書工房の『多文化に出会うブックガイド』ではなぜ別の国として分類されているのかという点だ。調べてみるとアラスカは以前ロシアの一部でありクリミア戦争後の1867年にアメリカ側の領地になったようだ。

【表8】国際理解教育に有効であると考えられる中央アメリカ・南アメリカの絵本

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
71	バハマ	あおいうみのイルカたち	写真/越智隆治(日本) 文/越智充奈子(日本)	ポプラ社	幼児	気候 バハマ諸島の北、大西洋の暖かな海域に住むマダライルカの生態 海へ息づく命への思い	なし	14	△
72	メキシコ	エレーナのセレナーデ	文/キャンベル・ピースリン(アメリカ) 絵/アナ・ファン(スペイン)	BL出版	小・低	文化・言語 スペイン語が随所に織り込まれている メキシコ独特の色使いを用いて描かれた街並み	スペイン国 民イラスト 賞受賞	なし	○
73	コスタリカ	ジャングル	松岡達英(日本)	岩崎書店	小・中	気候 世界にも稀有な豊かさを誇るコスタリアのジャングル 多様な生物が繋がり合う調和の世界	なし	14・15	△
74	エクアドル	特急キト号	フドウィッヒ・ベーメルマンズ(オーストリア)	PHP研究所	小・低	気候 豊かな自然と人々の優しさ	なし	10・	○
75	ブラジル	ガラシとクルピラ	文/陣内すま 絵/ヴァンペレーラ(ブラジル)	福音館書店	小・低	気候・文化 アマゾンの森に住むインディオの少年が主人公	なし	15	◎
76	チリ	アンデスの少女ミア - 希望や夢のスケッチブック	マイケル・フォアマン(イギリス)	BL出版	小・低	気候・文化 チリの首都サンチアゴ郊外で出会った親子への取材にもとづき、貧困の中に生きる人々	なし	15	○
77	アルゼンチン	こがねのあしのひよこ - アルゼンチン民話	秋野ゆきこ(日本)	福音館書店	幼児	植民地時代にスペイン人によってアルゼンチンに伝わったヨーロッパ起源の昔話	なし	なし	△

(2022.8筆者作成)

表8を参照すると、南米独特の雰囲気やどの本からも見られる。アマゾン川流域でのジャングルの暮らしなど原始的な生活が多々描かれているが、都市と校外の描かれ方が現在では変化している点も大いにあるであろう。すぐに情報が発信されるメディアとは異なり、長い時間保存され伝わる本だからこそ最新の情報と照らし合わせて誤解が生じないよう注意することも必要だと考えられる。



図13 ガラシとクルピラ
出典) 福音館書店

<https://www.fukuinkan.co.jp/book/?id=2642>

南米独特と言っても具体的にどのような点が南米らしさを出しているのか、図13 福音館書店の『ガラシとクルピラ』を見ると分かる。アマゾンの森が描かれていると私達の思う南米のイメージと一致する。絵本を用いると、文化や気候だけでなく地理も同時に学べるのである。

【表9】国際理解教育に有効であると考えられる日本の絵本

通し番号	国名	題名	著者(出身国)	出版社	対象年齢	学べる事	受賞歴	SDGs	評価
78	北海道	オキクルミのぼうけん	萱野茂(北海道)	小峰書店	小・低	気候・文化 生活の仕方すべてを 教えてくれたとする 神オキクルミ	なし	なし	○
79	沖縄県	おきなわのえほん エイサーガーエー	儀間比呂志(沖縄県)	ルック	小・低	気候・文化・言語 踊り、歌い、滑稽な 踊りを見て笑って、 賑やかに先祖の供養 をする沖縄のお盆	なし	なし	○
80	(日本)	もったいないばあ さんのいただきます	真珠まりこ(兵庫 県)	講談社	小・低	文化 料理を作ってくれる 方への感謝の気持ち を教える	なし	2	△

(2022.8筆者作成)

表9を参照すると、日本国内と言っても北は北海道から南は沖縄県までそれぞれの独自の文化が発展しており現在もそれらを大事に守り継承していて、その手段の一つが絵本という形になっていることが分かる。



図1 4 もったいないばあさんの いただきます
出典) 講談社
<https://www.kodansha.co.jp>

また図1 4からも分かるよう「いただきます」や「ごちそうさま」という気持ちを込めた言葉は世界的にみると珍しく日本独自のものであるようだ。また『もったいないばあさん』シリーズには『もったいないばあさん てんごくとしごく』もあり、天国と地獄という考えは日本独自のものであることを理解すると同時に自分たちが幼い時から当たり前だと思っている概念や考え方は世界的に見ると独特の日本の文化であることが分かる。海外では日本のこのような絵本を見て日本という国のイメージを持ち、広げるのかもしれない。その国では当たり前のことが客観的に見ると当たり前ではなく大切にすべきそれぞれの文化であるのに違いない。

<絵本の評価一覧表を作成しての考察>

- ◎…21冊
- …29冊
- △…30冊

今回、三段階の評価を施したが表を作成して全体としての考察を述べたい。まず◎という評価になった絵本では多くが戦争や紛争、環境問題、自然災害、伝統文化等の紹介や提示をしている作品であった。また絵や写真でその土地の風土や気候がはっきりと示されているものや、日本語での文だけでなく同時にその国の公用語も記されているという特徴のある絵本も複数見られた。日本で海外の絵本を翻訳するうえで内容やニュアンスに訳者の感性や捉え方が入ってしまうことが予想されるが、このように実際の公用語での原文や単語の説明等も示すことにより説得力が増している絵本が多数あった。

さらに◎の中でも受賞歴のある作品は、未来へ向けて警鐘を鳴らしているものが多かった。単に読者を楽しませることや文化や気候、言語を知ってもらうことなどといった目的のみで描かれているのではなく、込められたメッセージ性が深いものこそ受賞という形で明確に世間から評価されているのだと分かる。

一方で、△の評価になった絵本では◎の評価になった絵本の上記の特徴と比較し、特に込められたメッセージ性がないものがほとんどであった。また幅広い年齢層に向けているというよりは低年齢層に向けた、簡単で分かりやすい物語が多かった。しかし△や○の評価になった絵本の中でも国際理解教育に効果的であると考えられる作品も複数あった。例えばドイツの『オットー - 戦火をくぐったデディベア』やオランダの『絵本アンネ・フランク』、マダガスカル『マダガスカルがこわれる』である。内容等はとても評価できるものであっても作者がその国出身の方ではない点や、例えば気候のみに焦点が偏ってしまっていて他の文化や言語などの部分について

ほとんど触れられていないといった点が指摘できる。これらにより評価が低かったことが◎の評価にならなかった要因である。

また評価基準に作者がその国出身の人であること、という項目を設けたが中には日本人の作者であってもその国に自分の足で赴き現地の人と共に生活をし、それらを踏まえて作品を作り上げた日本人作者も多数いた。これは信頼のある現地の様子が描かれていると考えられ評価すべき点である。

このように今回作成した評価表での◎の評価の絵本が国際理解教育に効果的であり、○や△の評価の絵本がそれに比べると効果的ではないとは一概には言えない。だが、限られた授業時数の中で国際理解教育をより効果的に行うための、絵本選びの1つの指標となるのではないだろうか。

国際協力機構(JICA)が2022年3月に発表した「グローバル化時代の国際教育のあり方 国際比較調査 フェーズ I I・第1年次国内調査」において総合的な学習の時間のうち国際理解という項目の実践割合が最も高いのは中学3年生で28.2%であった。

以上を踏まえ中学3年生を対象とした学習指導案を提案したい。

中学3年 総合的な学習の時間 学習指導案

2022年10月27日作成

作成者：高橋明日美

- 1 単元名：国際情勢を知り、戦争と平和について考えを深めよう。
- 2 教材名 大塚敦子『平和の種をまく ボスニアの少女エミナ』(岩波書店)
- 3 指導目標
 - (1)戦争・紛争が起こる背景や平和について考えを深める。
 - (2)世界の現状や戦争の実情を知る。
- 4 指導計画

絵本の読み聞かせを踏まえ、戦争・紛争が起こる背景を知り、平和を実現させるためにはどんなことが必要かを考え、それらを発表し合い考えを深める。
- 5 授業展開

分	学習内容	指導と学習活動	留意点
0	1 導入 (学習内容を知る) 2 ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争の原因について 3 平和について考える	1 絵本『平和の種をまく ボスニアの少女エミナ』の読み聞かせを行う。 2 今日は絵本の内容を踏まえて戦争と平和、世界の実情について考えを深めましょう。 3 では、「戦争や紛争はどのようなことが原因で起こるのか。また、平和とは何で、どうしたら実現することができるか。」という問いに対して自分の考えを持てるようにこの授業で考えを深めていきましょう。 4 まず、この絵本で挙げられているボスニア・ヘルツェゴビナ紛争について考えていきます。 5 絵本では、戦争が起こった理由について「それは神様にしか分からないよ・・・」とありましたが、みなさんはなぜ起こったと思いますか。ワークシートに自分の予想を書いてください。 6 では予想をグループで共有してみましょう。 7 この絵本の巻末にあるボスニア・ヘルツェゴビナ紛争の説明を紹介します。 8 次に平和について考えていきましょう。 絵本の最後に、主人公エミナの「ナダといっしょに、平和の種をまきたい」という言葉がありましたが、みなさんの考える平和とはどのようなものですか。ワークシートに自分の考えを書いてください。	1 読み聞かせはプロジェクターに絵本を写し生徒全員に向けて行う。 5(問い) ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争の原因はどのようなことであつたか。 (予想される答え) 宗教や民族、肌の色の違い 7 巻末にある説明を紹介する 8(問い) 平和とは何か。また、どうしたら実現できるか。 (予想される答え) 平和とは違いを理解し合い、助け合い、自由に生きられることだと思ふ。

4 学習のまとめ	<p>9次に、自分の挙げた平和はどうしたら実現できると思いますか。同様にワークシートに自分の意見を書いてください。</p> <p>10では考えをグループで共有してみましょう。</p> <p>11今日は『平和の種をまく ポスニアの少女エミナ』から戦争と平和、世界の实情について考えました。普段触れることの難しい遠い国の实情を絵本を通して知り、平和について考えを深めることができましたね。では授業を終わります。</p>	<p>9(予想される答え) 平和を実現させるためには、異民族や異宗教を認め合うことが必要だと思う。</p> <p>11 現在、様々な国際情勢の問題がある中で、メディアの情報を鵜呑みにするのではなく自分で調べ考える必要がある。またその上で自分の意見をはっきり持つことが大事である。</p>
----------	---	---

6 授業評価

- (1)戦争・紛争が起こる背景や平和について考えを深めることができたか。
- (2)世界の現状や戦争の实情を知ることができたか。

このように学習指導案を作成したのは、戦争・紛争を題材とした絵本を扱うことで単に「戦争＝悪、自国＝善・相手国＝悪」という一元的な考え方に疑問を抱かせ思考を相対化することをねらいとして授業を考えてみたかったためである。

現在の国際情勢ではI章で挙げたようにロシアによるウクライナ侵攻をはじめとして朝鮮半島での争いや、それによる周辺国が受ける影響など様々な問題が生じており、なかなか紛争解決の兆しが見えていない。毎日、ニュースなど様々なメディアでは紛争について製作者の主観が込められた視点から特定の国を批判することなどが当たり前に見られる。多くの子どもはその情報をそのまま受け入れ納得してしまうであろう。しかしII章で述べた通り、学校教育現場では国際理解教育でこれらの問題について触れることで生じる問題を恐れ、戦争や紛争についての話題を避けがちである。

国際社会で起きている問題に対して児童・生徒なりに向き合うことは学校教育現場において必要な行為であろう。将来を担う子どもたちにとって役立つ国際的な知識を、様々な立場から学ぶことができ、考えや理解を深めることのできる絵本こそ国際理解教育に適した教材だと言えよう。

V 絵本を通した新たな教育手法の提案

パソコンやスマートフォンの普及により、世界中の人と繋がれる世界が現在実現している。今までよりも外国と繋がれるチャンスがたくさんある。一方、武器一つで多くのモノを壊し、人の命を奪うことが出来てしまう。可能性と恐怖が隣り合わせにある。そんな未来を担っていくのは今の子どもたちである。しかし日本の義務教育で行われている国際理解教育は曖昧で直接的な学びとなっていないのが現状である。具体的には教材や指導案の不足や教員の価値観や立場による教育の行いにくさ、英語教育イコール国際理解教育といった誤った取り組みだ。よって国際的に役立つ知識を得、理解を深めるといった学びが不十分である。

この現状を解決し、より良い教育を行うためには今までの指導案や教材の不足による曖昧な国際理解教育を続けるのではなく、義務教育で統一して絵本を教材として使用し授業を行うのが最適である。子どもにとって身近且つ大きな影響を与えることが出来るだけでなく、幅広い層の人が楽しめる絵本を使用することは、国際的な知識をすべての小中学生に身に付けさせやすくなるに違いない。具体的には気候・文化・歴史・言語等を学び多文化への理解を深めることが可能である。さらに教員の個人的な考えや価値観のみに頼る必要がないため、今よりも最適で効果的な教育を低いハードルで行える。

このように絵本を使用した国際理解教育を日本の義務教育で行うことで、より国際的な知識と理解のある人材を育成できる。さらに国際的な知識と理解のある人が学習者を増やし世界的に増加する。このように絵本を用いた国際理解教育は多様性やそれぞれの文化・宗教等を理解し、尊重し合える世界への前進に有効な指導法なのである。

(22,694文字 原稿用紙56.7枚相当)

【参考文献及び関連URL】

- ◆世界とつながる子どもの本棚プロジェクト(2011)『多文化に出会うブックガイド』読書工房
- ◆福岡貞子・伊丹弥生・伊東正子・伊東正也(2014)『多文化絵本を楽しむ』ミネルヴァ書房
- ◆藤本朝巳(2015)『子どもと絵本 絵本のしくみと楽しみ方』人文書院
- ◆佐藤群衛(2007)「国際理解教育を取り巻く現状と課題～教育実践の新たな視点を求めて～」『教育学研究』「教育現場の多様化と教育学の課題」
- ◆杉浦正好(2005)「韓国の小学校では英語の授業がどう展開されているのか？-担任主義の英語教育-」
- ◆高山博(2011)「これからの代各学部の歴史教育」『学術の動向』「グローバル化と歴史学」
- ◆劉慧敏・工藤芳彰(2022)「八王子市の公立小学校における認知症サポーター育成活動と認知症を題材とした教育絵本」『BULLETIN OF JSSD 2022 日本デザイン学会 デザイン学研究』
- ◆中央大学国際経営学部(2021)「国際経営学部3年生・鈴木日向子が、目標の556%を達成するクラウドファンディング・プロジェクトを実施しました」
<https://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/globalmanagement/news/2021/12/57509/>
- ◆HAKUMONChuo学生記者が取材編集する広報誌(2022)「猫と暮らす前に読む絵本『ぼく わからないよ』」
https://www.chuo-u.ac.jp/hakumon_chuo/news/2022/04/59944/
- ◆文部科学省「国際教育を取り巻く現状と課題」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/026/houkoku/attach/1400595.htm